塩澤町史

通史編 下巻

目次

口絵
凡例
近世
第一章　新田村のなりたち―大開発の時代―……3
第一節　高田藩（松平光長）領下における大開発……3
第二節　村々における開発……10
第三節　魚野川・登川の治水と用水利用……23
一　魚野川・登川の用水堰・川除堤……23
二　洪水と普請……29
第二章　三国街道をめぐる交通・流通……39
第一節　街道の往来と人馬の継立て……39
一　三国峠・清水峠を越える道……39
二　三国街道の継立て……45
第二節　町場の風景……50
第三節　峠を介した商業……63
一　越後と江戸を結んだ中継ぎ商い……63
二　上州出米……64
第三章　村の生業……71
第一節　関村の佐藤九左衛門の経営……71
一　米作……71
二　畑作……79
三　駄賃稼ぎ・縮生産を通じた収入……82
第二節　川を利用した稼ぎと村……86
一　中村の筏河岸……86
二　筏河岸をめぐる百姓の稼ぎ……90
三　川漁……98
第四章　加工産業のはじまり～酒と縮～……100
第一節　酒造のはじまり……100
第二節　縮の生産とその展開……109
一　白布から縮布へ……109
二　縮生産の広まりと地主の商い……114

三　江戸出商いの広まりと塩沢商人……117
四　商いをめぐる市の争い……124
五　商いの広まりと生産の変化……131
第五章　入会山野の利用と維持……142
第一節　山争いの発生～入り組んだ入会山の利用～……142
一　家の増大と山林資源の不足……142
二　舞子山組の山争い……148
三　飯士山をめぐる山論……151
四　大沢山をめぐる山論……153
五　仁田山・小黒山をめぐる山論……155
第二節　山野の利用と水不足～登川流域の村々をめぐって～……158
一　木呂伐り出しによる水不足……158
二　芝野開発と水不足……161
第三節　入会山の利用をめぐる取決め……167
一　山手米の納入……167
二　入会山の山番……168
第六章　村の生活文化と信仰……172
第一節　村の生活文化……172
一　俳　諧……172
二　和歌と漢詩……178
三　北越雪譜……181
四　村人と書物・教育……184
五　歌　舞　伎……185
六　村を訪れた人々……189
七　医　療……193
八　食　文　化……197
第二節　村人の信仰……201
一　金城山をめぐる鉱山と信仰……201
二　塩沢の修験……206
三　生活のなかの信仰……218
四　信仰の旅……223
第七章　村の運営……228
第一節　塩沢組と大割元の変遷……228
一　塩沢組の成立と大肝煎……228
二　割元制の成立と塩沢組……232
三　大割元の成立と塩沢組……238
第二節　塩沢組の御蔵と御蔵米の川下げ……242
一　御蔵と蔵組……242
二　御蔵米の川下げと川船……245
三　川船と廻米をめぐる問題……249
第三節　打ちこわしと生活のたてなおし……254
一　打ちこわしによる社会の混乱……254
二　牧之による倹約・勤勉の主張……257
三　黒田玄鶴の殖産運動……260
四　百姓の他邦稼ぎ……264
五　塩沢薄荷の生産と商い……266

第四節　村の幕末……276
一　惣代庄屋の活動……276
二　清水新道……277
三　幕末の騒動……279
四　維新の戦争……283

近現代

第一章　近代への基礎作り……289
第一節　明治初期の塩沢……289
一　行政組織の変遷……289
二　村の財政と運営……292
三　村々の様子……295
第二節　新しい制度の下で……298
一　徴兵制……298
二　地租改正……300
三　国民皆学へのスタート……304
四　信仰と神社政策……318
第三節　自由民権運動と塩沢……321
一　自由民権運動の胎動……321
二　田村寛一郎と憲法……323
三　国権派と改進派……325
第四節　近代化と人々の暮らし……328
一　殖産興業と松方デフレ……328
二　コレラと闘う……331
三　清水越新道の開削……333
第二章　中央集権国家と地方民衆……336
第一節　農山村の生業と地主制の進行……336
一　市制・町村制の導入と塩沢……336
二　水や泥と闘う……341
三　農山村の生業……344
第二節　天皇制国家の形成と教育……350
一　日清・日露戦争……350
二　岡村貢と上越鉄道……360
三　地場産業の形成……364
四　忠君愛国への薫陶……371
五　生活と宗教……382
六　もめぬいた合併……386
第三章　魚沼地方の大正デモクラシー……391
第一節　日露戦争後の世相……391
第二節　名望家政治の展開……394
一　憲政会か政友会か……394
二　県立中学校が欲しい……401
第三節　魚沼の交通革命……407
一　鉄道景気に沸く……407
二　鉄道と不協和音……410
第四節　自然の猛威……414

一　雪への怨み……414
二　物価騰貴と関東大震災……416
第五節　自由教育とファシズム教育の萌芽……419
一　童心・自由教育の展開……419
二　官制色の濃い社会教育……425
第六節　戦間期と山村の諸産業……430
一　地場産業の動揺……430
二　蚕　糸　業……430
三　林政の出発と部落有林野統一……433
四　塩沢町の商工業……438
第七節　女工王国……441
一　なぜ女工王国か……441
二　女工保護組合……446
第四章　アジア太平洋戦争と塩沢地方……449
第一節　農本主義の土壌……449
一　農山村受難……449
二　昭和九～十一年の農村恐慌……452
第二節　土地を農民に……458
一　閉　塞……458
二　利雪・克雪……459
三　立ち上がる農民……462
四　救農施策―自力更正に全農民動員……468
五　沃野万里・五族協和のかけ声……469
第三節　ファシズム期の教育……476
一　学校の兵営化……476
二　濁流に抗して……477
三　ファシズムの奔流……478
第四節　太平洋戦争と農村……481
一　在郷軍人分会……481
二　大日本婦人会と翼賛青壮年団……487
第五節　忠良なる臣民の果てに……489
一　海軍工廠への動員……489
二　堀口青年涙の惜別……491
三　克明なる従軍日誌……493
四　海軍航空隊の日々……497
五　北辰学寮と第二滑空訓練場……498
六　変貌する農村……501
七　戦時行政……502
八　戦争と宗教……505
第五章　戦後塩沢の再建……509
第一節　戦後の塩沢……509
一　敗戦時の様子……509
二　バー・モウと塩沢……511
三　物資の不足と食糧確保……513
第二節　戦後の諸改革……521
一　民主教育への転換……521

二　新制中学校の誕生……524
三　社会教育活動……526
四　農地改革と供出……533
第六章　町村合併と塩沢の変化……541
第一節　新塩沢町の誕生と産業の変化……541
一　町村合併……541
二　スキー場開発……546
三　土地改良と減反……552
四　塩沢紬……561
第二節　学校教育と社会教育……567
一　県立塩沢商工高等学校の創立……567
二　学校統合問題……570
三　青年・女性の活動……576
第三節　埋もれた生活からの脱却……579
第四節　六日町との合併ならず……584
一　町村合併紛糾第二幕……584
二　三たび六日町との合併ならず……585
第五節　偉人を称える……589
第七章　「経済大国」下の塩沢……591
第一節　塩沢町総合開発計画……591
一　米づくりに賭ける情熱……591
二　塩沢町の商工業……597
三　林業へのとりくみ……602
第二節　雪と生活……606
一　少雪と多雪の被害……606
二　二度開いた冬季国体……608
第八章　高速交通体系の中で……610
第一節　高速交通化への対策……610
一　上越新幹線と塩沢……610
二　関越高速道と塩沢……611
三　駅の無人化……615
第二節　リゾート開発とふるさと創生……617
一　リゾート開発とマンションブーム……617
二　住みよい二一世紀の塩沢町……620
近現代編協力者一覧……623
近現代編話者一覧……623
近現代編参考・引用文献……623
別編　近世・近代人物像……633
執筆者一覧……645
町史編さん関係者名簿……647